

飼養保管施設設置責任者 各位

第2回(本年度第Ⅱ期) マウス・ラット微生物検査サービス開始のお知らせ

動物実験センター(本年4月から発足)では、附属動物実験施設と共同で各飼養保管施設を対象としたマウス、ラットの微生物検査を行っております。

既に星陵キャンパスでは第1回微生物検査を実施し、効果をあげておりますので、第2回目からは全学の飼養保管施設を対象に微生物検査サービスを実施することにいたしました。

相互感染を未然に防ぎ、適正な動物実験の実施と結果の評価のためには実験動物における病原体検査が必要不可欠です。特に繁殖を行っている施設では微生物検査は必須であると言えます。まずは、皆様の施設の清浄性を確認してみませんか？ふるってご利用下さい。

今回の微生物検査サービスは無料です。また、出張採血もいたします。

東北大学動物実験センター長 笠井 憲雪

☆ 微生物検査の申込書 ☆

1. 飼養保管施設承認番号: _____
2. 部局名: _____ 施設名: _____
3. 検査依頼飼育室数: _____ 室
4. 検査動物種: マウス ・ ラット (何れかに○)
5. 動物の繁殖: している ・ していない (何れかに○)
6. 出張採血サービスの利用: する ・ しない (何れかに○)
7. 連絡先担当者ご氏名: _____
電話番号 _____ FAX 番号 _____
E-mail _____
8. その他ご意見、ご要望

☆

申込書は、下記宛にメールかFAXでこのままご返信下さい。

申し込み締め切りは8月21日まで。

後日、日程調整のご案内を差し上げます。

検査業務責任者/動物実験センター・附属動物実験施設 末田輝子

検査業務担当者・問い合わせ先/動物実験センター 吉田知香

E-mail: chika@m.tains.tohoku.ac.jp (申込先)

電話番号: 022-717-8178 FAX 番号: 022-717-8180

マウス・ラット微生物検査要領

☆受付期間：平成21年8月7日まで

☆検査実施期間：平成21年8月下旬～9月末

☆検体(動物匹)数：2検体/1回/1飼育室が原則ですが、施設規模によります。

【検査項目】検査にはわかもと製薬㈱「モニライザ A」を使用し、動物実験センターで検査致します。流行頻度の高い下記4項目について検査いたします。

マウス:センダイV, マウス肝炎V, マイコプラズマ, Tyzer's organism

ラット :センダイV, 唾液腺涙腺炎V, マイコプラズマ, Tyzer's organism

【検査頻度と検査匹数】原則 4回/年 2検体/1回/1飼育室

【血清検査料金】今回は無料

【血清採取方法及び血清送付先】以下の2つの方法から選ぶことができます。

1. 自前採血

- 1)注射器で血液を0.5ml以上採血し、針を外す(溶血防止のため)
- 2)マイクロチューブの管壁に沿って泡を立てないように静かに血液を入れる
- 3)室温で30分～1時間静置後、血清を分離し滅菌生理食塩水で10倍希釈し凍結(10倍希釈凍結血清)

→10倍希釈凍結血清2ml以上を下記の施設に送付して下さい。

東北大学星陵キャンパス内の動物実験センターまで検体を冷蔵または冷凍のまま持参していただくか、もしくはクール宅急便等で〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1 動物実験センター(吉田宛)に送付して下さい。

2. 採血をセンターに依頼する→貴施設までセンター職員がお伺いし、採血をいたします。

【検査動物については、以下の点に御注意下さい】

- ・飼養保管施設で1ヶ月以上飼育された8週齢以上の動物から採血して下さい。
- ・免疫不全動物は検査不可。同室で飼育した免疫機能の正常な動物から採血して下さい。
- ・高免疫グロブリン血症動物からの採血は擬陽性になる可能性があります。
- ・検出率の向上を目的としてモニター動物の設置をお勧めします。1～2匹の予めSPFであることが明確な動物を入手し、検査希望の飼育室に8週間以上飼育します。その時、飼育中のケージ交換時(1週間に1回程度)に飼育室内の全ケージの汚染チップ・糞便等をモニター動物のケージへ少量混入させます。このことにより感染源が積極的にモニター動物に反映されます。

【検査結果について】

「モニライザ A」により陰性の場合、陰性と判断します。陽性になった場合には、実験動物中央研究所による確認検査(無料)を行います。両検査で陽性と判定されて初めて「陽性」となります。検査結果は、書面にて通知いたします。検査結果及び個人情報、検査依頼をされた担当者以外には開示いたしません。しかし、各データを匿名化後に全データを取り纏めて発表することがありますが、ご了解ください。

【充実のサポート体制】

万一汚染が見つかった場合は、貴施設の飼育管理方法の改善について、動物実験センターにて助言および支援を行います。